



びるっば 3

医療法人近森会

発行 ● 2007年2月25日

www.chikamori.com
www.近森病院.com

〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

精神科 ● 新たなグランドへ



近森病院 第二分院 院長 明神 和弘

精神科医療の変化

精神科医療を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。県内の精神科病床3931床のうち65%は1年以上の長期入院患者が占めておりますが、日本の精神科医療もこれから平成23年までに7万人の精神障害者を退院させ地域で生活できるようにすることを目標にしており、精神障害者の地域生活を支援する体制がますます必要とされるようになってきています。

障害者自立支援法

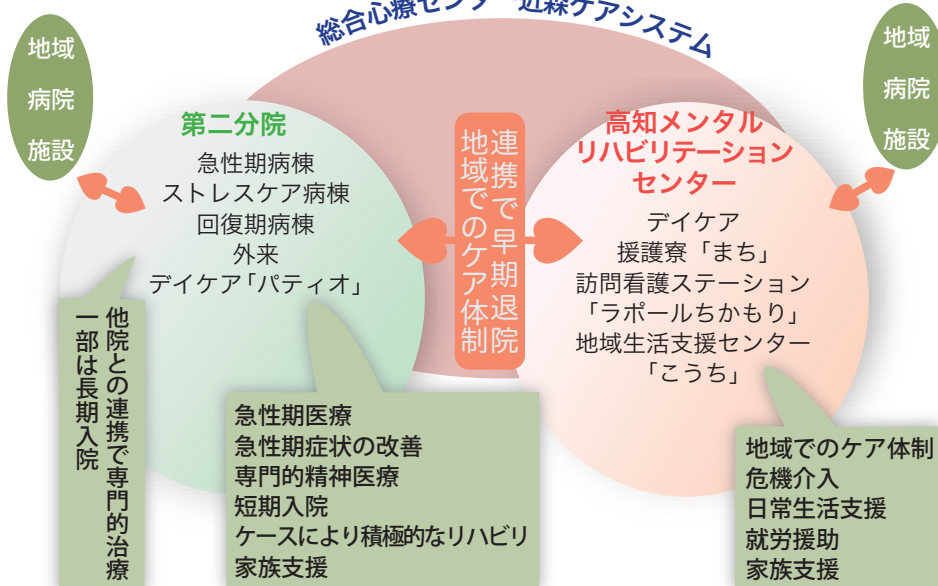
障害者自立支援法は知的・身障・精神の障害の区別に関係なく、障害のある人へのサービス提供を一元化させることや、就労支援事業の創設など障害者の自立を支援する制度として昨年施行されました。

昨年10月から地域生活支援センターこうちは高知市から「相談支援事業」と「地域活動支援センター」の事業委託を受け、障害者自立支援法に基づくサービスの窓口としての役割を担うことになりました。

総合心療センター近森のケアシステム

私たちは昭和59年に第二分院を開設以後、デイケア・作業療法・訪問看護ステーション・援護寮・地域生活支援センターと精神障害者の地域生活を支援するケアシステムを構築して参りました。また、平成15年に病院新築後は病院機能の再編を行い、急性期とストレスケアの病棟、ストレス外来とうつ、神経症対象で復職、再就職を目的としたデイケア「パティオ」を開設。

地域で必要とされる精神科医療の提供を目指し、出来るだけ早く回復し退院されて地域で生活していただくことを目標に、これからもケアシステムを充実させていきたいと考えています。



経営面から見た 高知医療センター



近森 正幸

先般、医療センターの吉岡企業長が任期2年を残して辞められることになった。先には瀬戸山院長の辞任に続き、経営担当の副院長である大脇先生、実務を取り仕切っていた沖次長、そして今回と経営責任者の全てが任期を残して途中で辞められている。

病院としての存続が危ぶまれる状況にあって、病院のトップが、任期半ばで辞めるのは、あまりに無責任といわざるを得ない。

医療センターは現在、県と市の繰入金を入れれば50億円近い赤字である。その原因の多くは常識的な初期投資の

4倍以上をかけた病院の建設費の負担と、一人当たり年間1千万円を超える、一般の高知県民には考えられないような高い人件費である。経営改善策としての7:1看護の導入も、看護収入は増加しても、それ以上に人件費の高騰で、なんら経営面の改善にはならない。

現在の医療センターには、むしろ抜本的な改革が必要で、地域の中核病院として高度医療に徹し、他の病院が出来ないような医療機能に絞り込み、病床数を減少させ、チーム医療で労働生産性を上げ、限らないコストの削減をすることしか、もはや再生の道は残されていないのではないか。

いま最も危惧されることは、このような非効率な運営を続けることで、高知県、高知市からの膨大な繰入金求められるという保障はないということである。近い将来、社会基盤の整備や行政サービスなどの著しい低下を被るであろう県民、市民はもっと声を上げなければ、夕張の二の舞であることは自明のことであろう。

理事長・ちかもり まさゆき

第37回 地域医療講演会

心臓外科における 総合的低侵襲化について

榊原記念病院 副院長・心臓血管外科主任部長 高橋幸宏先生をお迎えして
2007年2月9日、高知パレスホテルで

心臓血管外科部長
入江 博之

榊原記念病院と言えば日本で最初に開心術を行なった東京女子医科大学の榊原 任教授の流れをくむ病院で、心臓専門病院です。数年前に新宿駅



高橋副院長

入江部長

のすぐそばから約40分離れた調布に移転しました。心臓手術件数は大人と小児を合わせて日本でトップの症例数を誇っておられます。高橋先生は主に先天性心疾患の手術が得意で心室中隔欠損症や心房中隔欠損症といった手術を短時間で行なうことで有名です。

今回は低侵襲をキーワードにご講演下さいました。低侵襲というのは単に小さく皮膚を切るというばかりではなく、輸血を行なわない、手術後のさまざまな血液の不利益の反応を未然に防ぐ、さらにはなんと職員への低侵襲(つまり17時までには終了する手術プラン)をお話しいただきました。

看護師さんの早期習熟も大きな課題として取り上げておられました。講演後の質疑で、手術室の看護師さん達は残念ながら3年ほどで転職されるとのことでした(ちなみに当院

は平均6.7年)。

当日は高知パレスホテル2階ホールが満席になり、立ち見も出ました。他病院の循環器内科、心臓外科の先生ならびに小児循環器、更には開業の先生方を初め臨床検査技師、臨床工学技士、看護師など幅広い職種の方が総数88名ご出席下さいました。

最後に土佐鶴がお好きとのスライドもお示しになり、和やかな雰囲気有意義な講演会を終了しました。

なお翌日、土佐鶴の蔵見学を総杜氏長の池田健司氏の案内のもとで楽しめたこともあわせてご報告します。



医療安全シリーズ③

医療安全担当看護師長 青木千利

危険予知

倉本聡脚本のテレビドラマ「拝啓父上様」にはまっている。老舗割烹の厨房で見習い板前さんが「水道1ヨシ!水道2ヨシ!ガス ヨシ あっ閉めてネエ」と頭をかきながら指差し呼称をしているのを見て、思わずニンマリした私。

1月27日、土曜日の半日を使って医療KYセミナーを開催した。平成18年度の主な取り組みであった“危険予知訓練”の3回目である。入職2年目の全職種(第二分院、近森リハはセーフティNs)が対象であったので、理学療法士・検査技師・薬剤師・事務職・アテンダント・看護師と多職種から参加が得られた。



手作りのイラストシートを提示して、その中に潜んでいる危険要因を探り、事故防止策を考えるグループワークである。実行可能なチーム行動目標を立て、指差し呼称項目を決定してチーム全員で唱和するのである。初めての経験者にとっては、気恥ずかしい思いもあったであろうが、男性参加者の大きな掛け声が場をピリッと良い雰囲気にくれた。この研修が少しでも医療安全活動の意識づけになれば幸いである。

聴診器

近森リハビリテーション病院 2階病棟

看護師長 増田千恵

私は夫と子どもふたりの四大家族ですが、子どもふたりは成人し社会人で母親の私は、寂しい思いをしています。

そこで昨年10月だったと思いますがペットショップを見に行った時、水色のセキセイインコの赤ちゃんが目にとまり反対する夫を説得し、買ってきました。

もともとセキセイインコは飼育したことがあるのですが、以前飼育していたのは肩に止まり自分の名前を喋れるようになった時分に、ペラン

ダで籠の掃除をしていてどこかに飛んでいってしまったのです。そのことがあり夫が反対していたのですが、夫も子どもたちも小鳥が嫌いではないので飼育し始めると皆でかわいがっています。

最近、自分のキョロちゃんという名前を喋るようになり肩や手に乗りますし、夕方は一人ぼっちで家族の帰りを待っているの誰か帰るとうれしくてピーピーガタガタ籠の中を動き回るとてもかわいいのです。

20gのオチビさんですが、もうしっかり「我が家の5人目の家族」です。

今度はどこかに飛んでいって帰ってこられるように住所を喋れるようにしたいのですがどうなることやら?



念のため
インコはここへ

うちのナンバー5

近森会再就職 Report



いったん近森会を退職されたベテラン看護師さんたちが、「やっぱり近森会で働きたい」とカムバックされています。段取りのついた復職の皆さんが一晩こうして集まってくださいました。皆さん方にとってこの退職は「近森会再発見!の旅」でもあったようなのです。

そこで梶原和歌看護部長も交えて、立春弁当プラスビールで、溢れる思いをご歓談いただきました。

出席者は敬称略で左から順に、濱渦美紀(外科外来)、村田美和(ER、一般外来)、片岡真知子(4東)、山口恵(HCU)、梶原和歌(看護部長)、川久保和子(3東)、矢野晶子(6西)

キーワードは

近森愛と達成感

各人各様の退職理由

退職理由は皆さんそれぞれで、たとえば「近森会でしか働いたことがないから別の病院の空気も吸ってみたい」「異動によってやりたい部署から離れたが、希望の部署にとどまるためにまずそれなりの資格を取りたい」「与えられた役割が重過ぎて、しんどくなった」「大都会の救命救急センターで働きたい」「結婚で県外へ住むことになった」などなど。

こんなにバラバラな退職理由なのに、復帰の理由については見事に皆さん共通に、およそ次の5点ほどに整理できてしまった!

離れたからこそ見えた!

つまり①移った病院の規模の大小に拘わらず、最新の医療事情から取り残されていくような不安を感じるようになる②バタバタ時間に追われることがない代わりに、仕事の達成感も薄い③チームとして色々な職種が患者さんに関わることで生まれる医療に対する自信が持てなくなる④家族や自身の体調不良のとき、周りのスタッフがどのように関わってくれるかというとき、しみじみ近森スタッフの情の厚さや家族的な思いやりの深さが恋しくなる⑤スタッフ同士が確かに仲が良かった!

いったん職場を離れて自分のなかの流れを断つということはそれなりに負のエネルギーも使われたようだが、近森会で働いているときには当たり前だった色々なことが有難く、離れたからこそ見えることも多かつたらしい。

この勢いが新たな起爆剤

それぞれに「自分が経験してきた過去は、全て善。身の上に起こったことは何でもプラス」と判断するオメデ

タサも身につけ、「人生に対する余裕」のようなものもチラホラ芽生えているような…。しんどいことも戻ってきたけれど、どこか前とは違っているし…。

梶原部長は出直しスタッフから溢れる近森愛がとても嬉しいようで、「この人たちの勢いが現場の新たな起爆剤になる」と、始終幸せそうだった。

院外エッセイ

激務を癒す幸せの素

高知県栄養士会会長 久保田 賢

管理栄養士および調理師。
高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科
海洋健康医学講座助教授。博士(農学)
1970年4月9日、福岡県北九州市生まれ



栄養士を志していた大学生・大学院生時代、私は京都で10年間過ごしました。そのうち8年あまり、大学そばの住宅街にある料理屋の厨房に立ち、初めの2年間は洗い場を、残りの時期は焼き場を担当しながら、カウンター越しに多くのお客さんの様子を栄養士の卵として見てきました。

開店前から仕事帰りに立ち寄って、閉店後までの約9時間ひたすら議論を続ける大学教授たち、ほぼ毎週日曜日の夕方6時に判を押したように食事にやってくる家族、数人でやってきては揚げ物やご飯物をたっぷり平らげていく現場帰りの社長さんと作業員など、実に味わいのある常連さんたちに出会いました。

とくに、一人や二人で来店して目の前のカウンターを固定席としている多くのお客さんたちとのめぐり合いは、「食」について私の価値観を変える大きなきっかけとなりました。

なかでも、週に3,4回ほど比較的遅い時間に現れる、80歳に近い白髪のご老人がとても印象的でした。注文は決まって小さい銚子一本の熱燗と

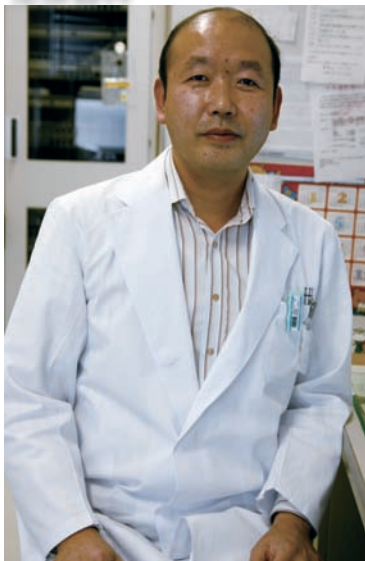
その日のおススメお造り。そしてそれ以外に季節のつまみを一品だけ。市内中堅会社の社長である彼にとっては昼間の激務で憂さも溜まっていたでしょうが、注文の品を告げる以外に彼の声を聞くことはまずありませんでした。少なくとも私の知っている数年間は全く同じペースでした。実に毎度決められたペースを淡々とこなす、という風でした。

おそらくお摂りになっていた炭水化物は、お酒からのアルコールだけ。魚や野菜は数種類あるものの、量はぜんぜん足りていません。大学で専攻していた栄養学に基づくと完全な落第点で、決して健康のためには良くない生活のはずです。ところが……。物静かではあるものの、激務を癒すほっと一息の時間を謳歌しているようで、どこから見ても幸せそうな人生なのです。そして何より平均寿命を超えても悠然と現役で働いているのでした。

この数年間は一つのことを私に教えてくれました。「栄養素だけが健康と人の幸せをもたらすのではない」と。



泌尿器科



安田 雅春

1月16日付で泌尿器科科長を拝命しました。平成5年4月より近森病院に赴任し、当時の山本科長、山下先生の指導のもと、泌尿器科の基礎を学びました。

平成18年7月より再赴任となり月日の流れを感じています。

現在は尿路結石や排尿障害の治療に力を入れています。少しでも皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

● 3月の歳時記 ●



臨床検査室

橘 知佐 (左) エオジン染色液をもつ橘

昨年4月、円山英昭先生が着任されてから、病理解剖やCPC、ルーチンの仕事も増え忙しい日々でしたが、充実した毎日を送っていました。

そんななか、1月16日付で主任心得の辞令をいただきました。技師として未熟な所はありますが、つねに前向きに専門知識の習得をしていきたいと思っています。今月より、電子カルテからの病理検査申込、報告も始まります。昨年取得した細胞スクリーナーの免許を生かして、細胞診検査も院内実施していきます。

就職してからあっという間に丸8年が過ぎようとしています。今まで、色んなことがありましたが、これからは検査室みんなが笑顔で仕事をし、スタッフ一人一人の専門力を伸ばしていける職場を目指して、頑張ります。

近澤 香奈 (中)

心臓模型をもつ近澤

就職して10年が経ちましたが、まだまだ分からないことが多く、日々奮闘しています。

生理検査室では、昨年大きな転換期を迎え、11月20日より生理システムが導入されました。右も左も分からない状態でしたが、皆様の協力を得て、無事稼働することができ

ました。しかし、生理検査室としても、まだまだたくさん課題が残っています。今後は、一つ一つの課題をクリアしつつ、スタッフみんなの協力を得ながら、よりよい生理検査室になるよう努力していきたいと考えています。これからもこれまで同様、より専門的な技術が求められるなか、スタッフ一同知識の向上に努め、頑張っていきたいと思います。

宗石 和江 (右) 血寒、BTB、チョコレート培地を持つ宗石

早いもので、近森病院に就職をして5年目となりました。その間いろいろなことがあり、私事では一昨年長男を出産し、忙しい毎日を過ごしています。

昨年9月末に復帰してみるといきなり電子カルテに変わり、周囲の変化がめまぐるしくただ驚くばかりでした。そんななか、今回1月16日付けで細菌室の責任者として主任心得の辞令をいただき、その責任の重さに身の引き締まる思いです。まだまだ勉強不足で迷惑をおかけすることがあると思いますが、より良い検査室を目指してがんばっていきますので、温かい目で応援よろしくをお願いします。

ヘルパーステーションえのくち

佐藤 史恵

このたびヘルパーステーション所長の退職に伴い、後任の辞令をいただきました。近森会に就職してから今まで、たくさんのスタッフと一緒に働かせていただき多くのことを学ばせていただきました。

チームアプローチの中で介護福祉士に求められることや役割など、これからもみんなで考えながら進められたらと考えています。現在、訪問介護事業所に所属していますので、在宅からたくさんのご意見を発信できたらと思っています。浮き足立つことなく、しっかり地に足をつけてこれからも仕事に励みたいと思います。まだまだ勉強不足でありますので、先輩の方々に助言をいただきながら頑張ります。

チューリップ (ユリ科の多年草)

文 新館5階東病棟 岡崎麻衣子
金子 友紀
画 新館5階東病棟 高橋 義典

※園芸品種が多く、花の色も赤、白、黄色、ピンク、紫など多彩。16世紀にトルコからヨーロッパに渡り、オランダで品種改良された。

チューリップの名前の由来は聞き間違いからついた名前だそうです。16世紀、トルコに駐在していた新聖ローマ帝国の大使ピュスベクが、チューリップをはじめ見て、「何の花か」と尋ねるとトルコ人は、自分の頭のターバンを指しながら「チュリッパ (ターバン) のような形だ」と答えたそうです。

大使はそれを名前と思い込み、それがチューリップの語源になったのだとか。

まぐろ

川添 昇

鮪のなめろう


 画 地域生活支援センターこうち
 土居 和人

安芸の造り酒屋が発売している「美丈夫ーうすにごり」が全国的に人気を博しているという。嬉しいことだ。(そういえばこの間、地元のレストランで東京農大教授で発酵学者の小泉武夫先生が地場食材を使ったフランス料理とともに、シャンパン代わりに美丈夫を飲まれていた。粋なお方!)

先日スーパーで買った折、レジのお兄さんが「発泡酒ですので呉々も注意して開けてください」とA4版にコピーした注意書きを渡してくれた。飲む前にピンを振るなどか、開栓は徐々に何回かに分けてしてほしい。「さもなくば、爆発して大変なことになる」とまで書いてある。

恐る恐る開けてみたが何のことはない。シュワーとも気泡も上がらない。でもキンキンに冷えた美丈夫は口の中でかすかにスパークリングし、その名の通り美味であった。その時に作ったアテが「鮪のなめろう」である。鮪のなめろうは有名で以前作ってみたが、やはりリタタキ(小口に切った刺身にネギや針ショウガをまぶしたもの)の方が良い。

材料 (すべて適量で)

①鮪の中落ちか切身(できれば中トロぐらいが望ましいが、もったいない) ②味噌(信州系) ③薬味ー青じそ、みょうが、奴ネギ

作り方 (1) ①と②をまぜ合わせながら包丁でできるだけ丁寧に叩く。味噌の按配はお好みで。(2) 薬味をきざみ(1)にまぜ合わせて出来上がり。

※カンタンそのもの。料理といえるかと思うが、これがまたけっこうな味である。鮪と味噌の旨味のハーモニー。それに青じその鼻の奥をくすぐる清々しい香り。みょうがのシャッキリ感が存在を主張し、ネギは「どうせ私は色どりよ」と控えめだが味をしっかりと引き締めている。

最近は日本酒をアペリティフ(食前酒)にすることが多い。この取り合わせはそのなかのひとつ。メインに続くお酒は料理次第。団塊世代の酒好きおじさんの夕暮れはこれまた good! である。

看護部 キラリと光る看護 その30

災害看護をリードする



外来勤務を終えたナースが17時30分会議室に集まってきた。本日の研修担当は災害対策小委員会外来ナースのYさんである。パワーポイントで損壊した新潟某病院のスライドを見せながら「震度7の地震が発生しました。外来深夜勤ナースは3名です。ERに心不全の患者1名、処置室で点滴中の患者1名、待合に熱発患者2名がおられます。その時あなたはまずどうしますか?○○さん」「トリアージに必要な三つの重点項目を教えてください」「防災無線機をはずして小本部に持っていく作業のできる人?」と問いかけていく。

予想される東南海地震に備えて一人一人が今夜自分のポジションでいざ具体的に動かねばならなくなったことを想定してシュミレーションし、より充実したマニュアル作成のために取り組んでいるのである。参加の男性は医師1名、看護師2名、

後はうら若い女性ナースたちであった。クリミア戦争の中でナイチンゲールは実践の中から組織者として看護の基本となるものを作り上げていった。

当院の災害看護に取り組んでいる女性リーダーにエネルギーの源は何?と聞くと「負傷者を救う仕事が好きといたらおかしいが、受身で参加していると、こうした方がいいのではない?と自分の意見をいいたくなる。それなら最初から積極的に自分の考えを主張しながら皆でマニュアルを作り上げた方が早い」と答えた。

日本救急医学会公認のJPTEC(病院前外傷教育プログラム)のプロバイダー資格をもち、さらにランクの高いJPTECインストラクターの先輩ナースや医師4名に追いつこうとしている熱意を感じた。実践力のある災害看護にできるだけ多くのスタッフが意識をもって欲しいと願う。

(看護部長 梶原和歌)

わたしの趣味

和服でのお出かけとコーディネート

高知メンタルリハビリテーションセンター【援護寮まち】

「あれ、なんできょうは和服じゃないの?」。飲み会やパーティー会場で周りからやっとな声がかかりましたと、いたく満足そうな三本るりこさんが和服にハマったのは6年ほど前の施設の夏祭りで浴衣を着て以来だとか。

洋服も組み合わせが楽しめるが、和服は小物ひとつとってもパリエーションが豊富で、「なんかもっと深いところで組み合わせを楽しめるみたい」で気に入っているとか。出かける場所や気分によって、きょうはどれにしようか〜と、迷う気持ちが嬉しくて、ワクワクして、そういう行為を楽しむ自分が嬉しいようで…。祖母が若い頃つけていたバラの柄の帯(写真左)を結んでいるのも、伝統を受け継ぐとか大袈裟ではなく、当時の息吹を今に感じる満足感があるのだそうだ。こだわりの草木染め作家のこの着物も大のお気に入り!

高知メンタルリハビリテーションセンター【デイナイトケア】



三本るり子(Ns)

着付け

月に一度のデイケアのプログラムで茶道が始まったことがきっかけで、和服にハマったお三人。和服を着てこそ覚えられる茶道の動きがあり、日本の伝統を茶道や和服を着ることで身近に感じられる喜びもある。着付けに抵抗がなくなり仕事以外で着る機会も増えそうで、だんだん着付けを楽しむ境地になっているとか!



伊井五十鈴(Ns)

西岡由江(Ns)

大杉英子(OT)

出張報告 ● 職業リハビリテーション実践セミナー（4日間）
於 千葉県幕張メッセ

就労支援の課題

近森病院 作業療法科 寶来 京子

このセミナーには、発達障害、精神障害、高次機能障害の3つの分野に分かれて、合計250名の方が参加されていました。

職業リハビリテーションとは、障害を持っているが故に職業に就くことが困難であったり、継続していくことが難しくなっている人にも職業を通じた社会参加、自己実現、経済的自立の機会を作りだして行く取り組みです。医療・福祉だけでなく、教育、保健、就業支援機関などの関連機関が連携し、総合的な支援を行なっていくことが求められています。

事故や病気により何らかの障害を受けられた方へリハビリテーションサービスを提供していく上で、復職することや新しい職業に就くことはご本人・ご家族にとって、大きな課題の一つです。今回セミナーに参加して、就業支援機関に勤務する職業カウンセラーや障害者雇用を實際行っている企業だけでなく、障害を持った当事者の方など様々な立場の方からの話を聞くことができました。4日間の講義はなかなか興味深く、有意義な時間を過ごすことができました。

実際に就労支援を行っていくことの難しさを改めて感じると共に、就労支援についての知識不足と関連機関との連携が現状での課題ではないかと考えています。まずは私にできること、関連機関—高知には高知市大津に高知障

害者職業センターがあり、就労支援をされています—のを知ることです。

なお、近森リハビリテーション病院地域リハ活動部の広報誌『結人通信』第7号（2005年4月5日発行）に、高知障害者職業センターが紹介されていますので、あわせてご紹介しておきます。

皆さんもぜひ興味をもって話を聞いてみてください。



信が紹介されている『結人通信』第7号（2005年4月）



新聞の創刊のお知らせ



四国管財保育室報『すくすく新聞』

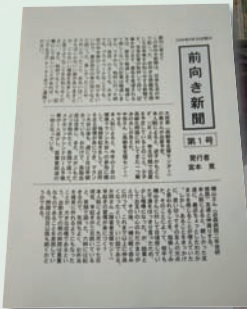
院内保育室「そと」で、子どもたちが毎日どんな風に過ごしているか、保護者会ではどんな内容が話し合われたか、どんな行事が行なわれたかなど、保育室の日常をおうちの方にお知らせするための保育室報『すくすく新聞』が発行され始めました。

最強のお客様係を務められる四国管財の中澤清一社長は、保育室の発展のため「忌憚のないご意見を（匿名でも）」と、大きく紙面を割いて言われています。

そもそも物事はマイナスよりもプラスに捉えたい。起こったことはどんなことであっても、なるだけ『前向き』に考えたい。

日常的にそんな思いのとても強い宮本寛・在総センター長は「皆さんの前向きな思いがどんどん広がれば、なお現場が回りやすいし、仕事が楽しいじゃないですか！そんな気持ちを多くの皆さんで共有したいんです」と、昨年秋にA4版一枚の月刊『前向き新聞』を創刊しました。只今は4号を制作中。面白くてタメになる情報も満載で一気に読み終えてしまいますヨ。（ひろっば編集室より）

Dr. 宮本寛責任編集『前向き新聞』



全国ベスト8

昨年10月に神奈川県で行われた社会人野球の全国大会時の写真です。バッターボックスに立っているのが私（まさに打つところです）。中学時代の同級、先輩後輩だけで作ったチームで、気心知れた仲間ばかりなのでみんな本当に楽しみながら野球をやっているように感じます。

高校まで野球を続けていた私ですが、昔のイメージ通りには身体が動かず、肩の故障など抱えながら、騙し騙しプレーしているのが

現状です。このチームでいつまで野球が出来るか分かりませんが、気の合う仲間同士、体が動く限り楽しみたいと思っています。



経理課 五藤大策



豪速球・笑

バレンタイン献血御礼



恒例のバレンタイン献血を、今年も近森病院玄関前で開催しました。バレンタイン当日は103名の方が足を運んでくださり、うち21名が200ml、51名が400mlの血液を皆さまのご協力ありがとうございました。血液センターの皆さま、受付を手伝ってくださったスタッフの皆さま、お疲れ様でした。

「お役に立ててこそ！」の私です。

この軽やかな身のこなし！というと、まるで運動選手みたいだろうか。パソコンの専門家、したがってパソコンの前がいちばん似合いそうな奥田さんだが、院内各所でお見かけするのは、そのフットワークの軽さの証明だろう。

パソコン専門店エレクトリックパーツの花形社員が近森会に勤める直接のきっかけになったのは、入江博之心臓血管外科部長の白羽の矢が立ったためだった。入江部長は「近森会のホームページを一新するに当たり任せられる人として強引に誘った」のだそうだ。つまり、過去3年以上にわたる近森会との関わりで、奥田さんの実績と人柄が頼りにされたためだ。

近森会スタッフを代表して感染対策委員会の近森幹子看護師長にその辺りの「頼りの仕方」を話してもらった。「そりゃ、ホントにお世話になってますヨ。最近発行し始めた『感染管理週次報告』にしても、スタッフみんなに知っておいて欲しいことを作文して渡したら、見事なレイアウトで瞬く間に返してくれるから、この流れの方がなお解りやすいなどと提案もしてくれて、ホントに有難い。助かってます!!

あと、ちょっとパソコンの調子が悪いんです～というSOSにも気軽に応えてくれて…。みんなうんと喜んでるって書いていてね!」

まあ、こんな調子で、近森会職員の奥田評は歯が浮くほどではないけれど、有難い褒め言葉が続く。

奥田さん曰く、「パソコンは道具。一台のパソコンで億を稼ぐ人もあれば、パソコン相手にストレスを溜める人も居る。この違いは何や!と思ってます」。

思い返せば小学校の4年生頃から趣味はすでにパソコンだったそうで、「自分でゲームを作りたい」と思ったのが最初。ものを作り出すことが好きな好奇心溢れる少年はスルスと成長し、得意なパソコンに結局仕事で関わるようになり、さらに「自分にとって何がカッコいいか、何が美しいかを考え工夫すること」も、いまの仕事で大きな比重を占めるようになった。

▼毎週水曜日、8階の健康管理センターで定期的に行われる『感染管理週次報告』の打ち合わせ会で、レイアウトの提案にとどまらず、医療従事者としての内容の把握にも努める奥田さん



病院という職場で小さい頃から少しずつずうっと貯め込んできた知識を、パソコンという道具を足がかりに「皆さんのお役に立て喜んでいただけることをする」のが自身のやり甲斐に繋がるのだという。

だからといって仕事一筋の堅物とは遠く、甘いマスクに柔らかい物腰で「無類の車好き」を自認するご本人の趣味

▼無類の車好きの奥田さん。現在の自慢の愛車・ALFA ROMEO、イタリア製。買い替えのたび色は赤に決めている



は多彩。スノボーに乗馬に写真に……。なぜか「球技だけがどうも苦手…」と照れる笑顔が、またいかにも皆に喜ばれそうな好青年。

近森会の女性スタッフを中心にパソコン熱がぐんと上がっているのも無理ないかも。奥田さんの緻密かつ創造的な仕事は近森会システム環境には不可欠の存在といえそうだ。

今年の「抱負」ということで…

図書室 西川 菜穂

私はたぶん人より苦手なことが多い人間だと思う。みんなにとっては普通のこと、私にとってはほとんどもなく苦痛だったりする。

その一つが「洋服選び」だ。女性のストレス解消法の上に挙げられる「ショッピング」だが、私にとってはストレス倍増アイテムだ。恥ずかしながら告白するが、私はいい年になって一人で洋服を買うことができない。たくさんある洋服を見て、何が良くて何が良くないのかわからなくなり、最後には「どうでもいいや」という気分になる。優柔不断を超えた興味不足のなせるわざか。しかし、いつも買い物に付き合わされた挙句、私に不機嫌になられる母もたまったものではない。結局偉大なる私のスタイリスト=母が選んでくれたものを購入し、足早にその場を去るのみ。

あるインターネットリサーチの「ご自分の洋服は主にどなたが選んでいますか」という質問に対し、女性の



リレー
エッセイ

せっかくの別
パーティーな
パターンのま
いただきまし
部屋の雰囲気
もに伝えし
（編集室）



98.2%が「自分」と答えている。ということは、私は1.8%に入るわけだな…と改めて現実を知る。そして、恥ずかしくなる。決して少数派だから恥ずかしいのではない。もっと本質的な恥ずかしさだ。

洋服も一つの自己表現。女性たるもの、身につけるものを人まかせにしたりはしないはず。そして、自己選択ができること、それは大人の証。深く反省し、今年こそ自己アピールのひとつもできる大人の女性を目指したいと思う。

図書室便り (管理棟図書室 1月受入分)

• AO Manual of Fracture Management Elastic Stable Intramedullary Nailing (ESIN) in children / Hans-Georg Dietz ,et al. • AO Manual of Fracture Management Minimally Invasive Plate Osteosynthesis (MIPO) / G On Tong, et al. • AO Manual of Fracture Management Internal Fixators Concepts and Cases Using LCP and LISS / Michael Wagner ,et al. • 最新整形外科学大系 12 胸腰椎・腰椎・仙椎 / 戸山芳昭 (専門編集) • 最新整形外科学大系 16 骨盤・股関節 / 糸満盛憲 (専門編集) • 最新整形外科学大系 17 膝関節・大腿 / 越智光夫 (専門編集) • 形成外科 ADVANCE シリーズ -1 頭頸部再建外科 最近の進歩 第2版 / 波利井清紀 (編著) • 形成外科 ADVANCE シリーズ -2 四肢の形成外科 最近の進歩 第2版 / 児島忠雄 (編著) • 形成外科 ADVANCE シリーズ -4 皮弁移植法 最近の進歩 第2版 / 鳥居修平 (編著) • 形成外科 ADVANCE シリーズ -2 レーザー治療 最近の進歩 第2版 / 谷野隆二郎 (編著) • 形成外科 ADVANCE シリーズ -4 美容外科 最近の進歩 第2版 / 大森喜太郎 (編著) • 実地診療にすぐに役立つ 実践抗生物質・抗菌薬療法ガイド 感染症別・原因菌別・薬剤別個別診療のすべて—縮刷版— / Medical Practice 編集委員会 (編集)

《寄贈本》• 大黒寿雄 遺稿集わたしのカルテから / 大黒寿雄・ヘルスケア・マネジメント 医療福祉経営の基本的視座 / 中島明彦・肝臓 vol.17 1976年・ACTA PATHOLOGICA JAPONICA vol.20 1970年

《別冊・増刊号》• 別冊NHK きょうの健康 自分で測る・自分で下げる 高血圧 / 島田和幸 (総監修) • EMERGENCY CARE 2007 年新春増刊 災害医療 救急医・救急看護師・救急救命士のための災害マニュアル / 太田宗夫 (編集)

《ビデオ・DVD》• 臨床力を上げたいすべての医療者のための Care Net DVD Dr. 岩田の感染症アップグレード 第4巻 外来シリーズ / 岩田健太郎 (監修) • Audio-Visual Journal of JUA vol.13, No.1 / 日本泌尿器科学会 (監修)

こもたのじ
「古茂田不二写真教室(初級～中級講座)」
古茂田不二作品集より「パチカン市国」
生徒さん募集



講師紹介 (『近森会 50周年記念誌』の撮影を担当)。日本大学芸術学部写真学科を卒業後、『週刊現代』『月刊現代』のカメラマンを務め、その後フリーに。現在は松山で撮影のかたわら松山デザイン専門学校で後進の指導に当たっている。著書に『瀬戸内海島巡り』新潮社刊他。元NHK文化センター写真教室講師。社団法人日本写真家協会会員、愛媛写真家協会会長。

URL geocities.jp/komos22mf/
受講者のレベルに合わせて！見て、知って、喜び…、その感動をしっかりと記録する写真表現技術を知って、もっと写真を楽しみませんか。カメラ(フィルム・デジタル)の知識から、光・色・構図まで、各自のレベルにあわせて丁寧に指導します。

定員:15名 受講料:月5,000円×6回(1クール合計30,000円)

(フィルム、デジタルいずれも可。カメラ無くても可)

期間:4月11日(水)～9月23日(日)ボクも勉強します(山本彰)

第2水曜日 18:00～20:00「写真基礎技術講義と写真の添削」

第4日曜日 13:30～16:00「撮影実習」わたしも始めます(川添舜)

会場:在宅総合ケアセンター近森2階 申し込み:和田書房 872-4859・822-5231 内 3466

コンパクト
デジカメで、
バシッ!!と
撮ろう!

1月の診療数	近森会 外来患者数	18,543人	企画情報室より
	近森会新入院患者数	852人	
	近森会 退院患者数	751人	
	地域医療支援病院紹介率	89.35%	
	近森病院平均在院日数	15.55日	
	近森会 平均在院日数	24.01日	
	近森病院救急車搬入件数	428件	
	うち入院件数	228件	
	手術件数	307件	
	うち手術室実施	198件	
	全身麻酔件数	108件	

編集室通信

▼毎年2月恒例の近森会ハチ北高原スキーツアー。今年は新しいスノーボードで、参加させていただいた。が、予想通り、雪がない！真っ白だったゲレンデが、今年は半分茶色い。しかも午後から雨。グローブやブーツの中までビショ濡れで滑った。帰って来たら、高知のすっかり春らしい陽気にさらにびっくり。ダウンを着ているのがおかしく感じられた。この記録的な暖冬に拘わらず、既に6回も滑りに行った私はそれなりに冬を楽しんでいる。(リンダ)